

# 宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成25年7月～9月期

## 目 次

1. 県下産業全体の景況 .....	2
(1) 主要景況項目のあらまし .....	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし .....	3
(3) 今後の見通しについて .....	4
2. 県下産業別の景況 .....	5
(1) 製造業の動向 .....	5
(2) 建設業の動向 .....	8
(3) 小売業の動向 .....	11
(4) サービス業の動向 .....	14

平成25年10月

宮城県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成 25 年 7 月～9 月期

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 149 企業

### 2. 調査対象期間

平成 25 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 25 年 9 月 1 日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	24
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	149

### 5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

# 1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 25 年 7 月～9 月期)の調査において、産業全体の業況 D I は、前期より 0.6 ポイント悪化し△34.2 (前期△33.6) となり、売上額(完成工事額) D I では、製造業がプラス値に転じ、建設業及びサービス業においても水面下ながら改善傾向が見られ、採算 D I も、製造業及びサービス業に改善傾向が見られる。小売業は、前回調査で売上額 D I 及び採算 D I とともに水面下ながら大幅に改善されたが、今期は悪化に転じた。

業況 D I を産業別にみると、建設業は△4.2(前期△16.6)と 12.4 ポイント改善し、サービス業も△32.7(前期△39.6)と 6.9 ポイント改善した。一方、製造業は△30.3(前期△28.1)と 2.2 ポイント悪化し、小売業は△55.8(前期△40.6)と 15.2 ポイント悪化した。

## (1) 主要景況項目のあらまし

### ① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I は 24 年 4 月～6 月期をピークとして各産業いずれも下降傾向にあったが、製造業においては 25 年 1 月～3 月期を底に改善傾向にあり、今期 0.1(前期△30.2)と 30.3 ポイント大幅に改善し、プラス値に転じた。建設業は△12.4(前期△20.9)で 8.5 ポイント、サービス業は△24.5(前期△37.5)で 13.0 ポイントそれぞれ改善したが、小売業だけは△58.1(前期△46.6)と 11.5 ポイント悪化した。

### ② 採算の状況

採算 D I についても、製造業においては△36.4(前期△42.5)と 6.1 ポイント、サービス業は△34.7(前期△42.6)で 7.9 ポイントそれぞれ改善した。建設業は△29.2(前期△29.1)でほぼ横ばいであるが、小売業は△55.7(前期△44.1)で 11.6 ポイント悪化した。

### ③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、サービス業が 12.2%(前期 8.3%)で 3.9 ポイント増加し、小売業 16.3%(前期 16.3%)、製造業 18.2%(前期 18.2%)と変わらず、建設業は 16.7%(前期 29.2%)と前期よりも 12.5 ポイント悪化した。

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

今回調査において宮城の売上額（完成工事額）D Iは、小売業を除き改善傾向となり回復の兆しを感じられた。特に、製造業においては前期に引き続き改善がなされ、今期は僅かながらではあるがプラス値にまで回復してきている。改善幅は宮城、東北、全国の順となっており、宮城の改善幅が群を抜いて大きくなった。

また、売上額（完成工事額）D Iが悪化したのは、全国のサービス業及び全国、東北、宮城の小売業となっており、それ以外は改善幅に差があるものの改善された。

表一1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.3	△ 16.3	△ 20.6	△ 5.7	△ 30.2	0.1
建 設 業	△ 3.5	△ 2.9	1.4	4.7	△ 20.9	△ 12.4
小 売 業	△ 33.7	△ 35.5	△ 39.1	△ 40.7	△ 46.6	△ 58.1
サービス業	△ 22.7	△ 22.9	△ 20.5	△ 24.3	△ 37.5	△ 24.5

### ② 採 算

採算D Iは、売上額（完成工事額）D I同様、全国、東北、宮城の製造業において改善されている。建設業、小売業では東北が全国を上回り、製造業、サービス業は全国が東北を上回った。そして宮城は全ての産業で全国、東北を下回っている状況である。

表一2 採算の状況（前年同期比・D I）

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 29.0	△ 25.0	△ 32.5	△ 27.4	△ 42.5	△ 36.4
建 設 業	△ 18.3	△ 18.4	△ 11.5	△ 13.6	△ 29.1	△ 29.2
小 売 業	△ 34.2	△ 39.1	△ 39.2	△ 38.1	△ 44.1	△ 55.7
サービス業	△ 27.1	△ 28.9	△ 28.3	△ 32.4	△ 42.6	△ 34.7

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（25年10月～12月期）については、小売業13.9ポイント、サービス業4.0ポイントの改善が見込まれ、製造業は15.3ポイント、建設業は16.8ポイントの悪化となった。

採算来期見通しD Iについては小売業が11.6ポイントの改善が見込まれ、製造業は今期と同率となった。建設業は4.1ポイント、サービス業は6.1ポイントの悪化となった。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

売上額（完成工事額）来期見通しD Iにおいて、全国は製造業、小売業において改善が見られる見通しであるが、建設業、サービス業においては若干ではあるが悪化の見通しとなっている。宮城は、小売業、サービス業において改善が見られる見通しであるが、製造業及び建設業は大幅な悪化を予想している。採算来期見通しD Iにおいては、全国はすべての産業が改善の見通しとなり、宮城は小売業のみ改善すると見通された。

表－3 売上額（完成工事額）の状況

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来期見通し	今 期	来期見通し
製 造 業	△ 16.3	△ 10.0	0.1	△ 15.2
建 設 業	△ 2.9	△ 3.2	△ 12.4	△ 29.2
小 売 業	△ 35.5	△ 34.4	△ 58.1	△ 44.2
サービス業	△ 22.9	△ 23.0	△ 24.5	△ 20.5

表－4 採算の状況

区分 業種	全 国		宮 城	
	今 期	来期見通し	今 期	来期見通し
製 造 業	△ 25.0	△ 19.8	△ 36.4	△ 36.4
建 設 業	△ 18.4	△ 15.8	△ 29.2	△ 33.3
小 売 業	△ 39.1	△ 35.9	△ 55.7	△ 44.1
サービス業	△ 28.9	△ 28.8	△ 34.7	△ 40.8

## 2. 県下産業別の景況

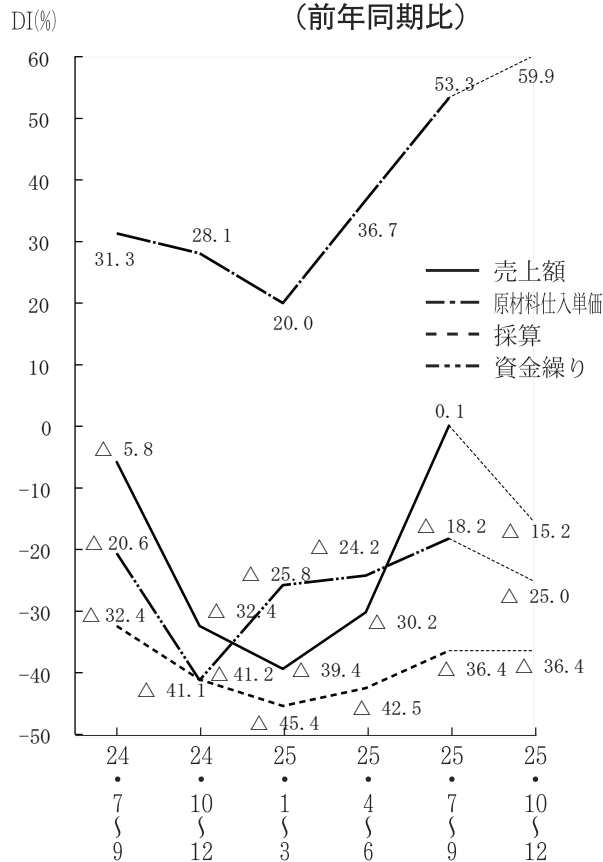
### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期0.1（前期△30.2）となり30.1ポイント大幅に改善し、採算D Iも今期△36.4（前期△42.5）で6.1ポイント改善し、資金繰りD Iは今期△18.2（前期△24.2）で6.0ポイント改善した。

原材料仕入単価は53.3（前期36.7）と16.6ポイント悪化し、原材料の高騰が続いている。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



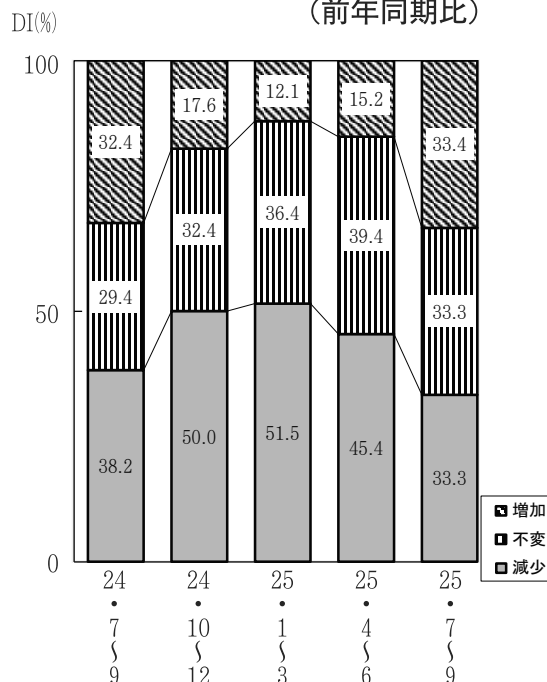
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上(加工)額

「上昇・好転」と回答した企業は、全体の33.4%（前期15.2%）と18.2ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業も33.3%（前期45.4%）と12.1ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iはプラスに転じ0.1（前期△30.2）となり前期比30.3ポイント大幅に改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

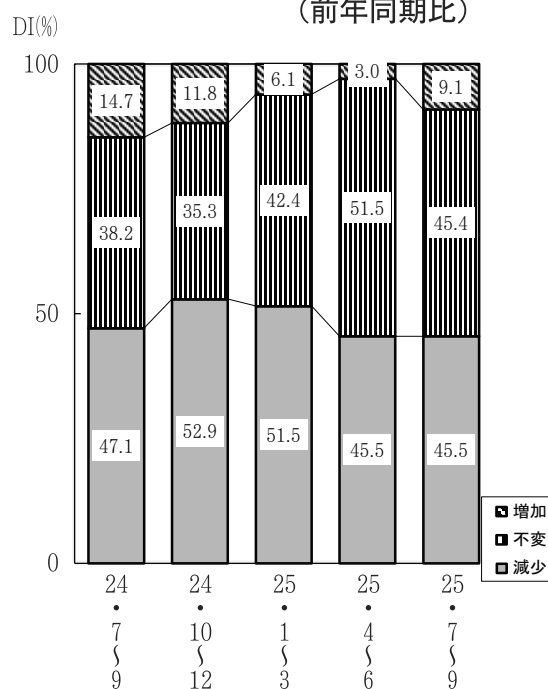


### (b) 採算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の9.1%(前期 3.0%)で6.1ポイント増加し、「減少・悪化」と回答した企業は45.5%(前期 45.5%)で前期同様であった。

その結果、採算DIは△36.4(前期△42.5)となり前期比6.1ポイント改善した。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



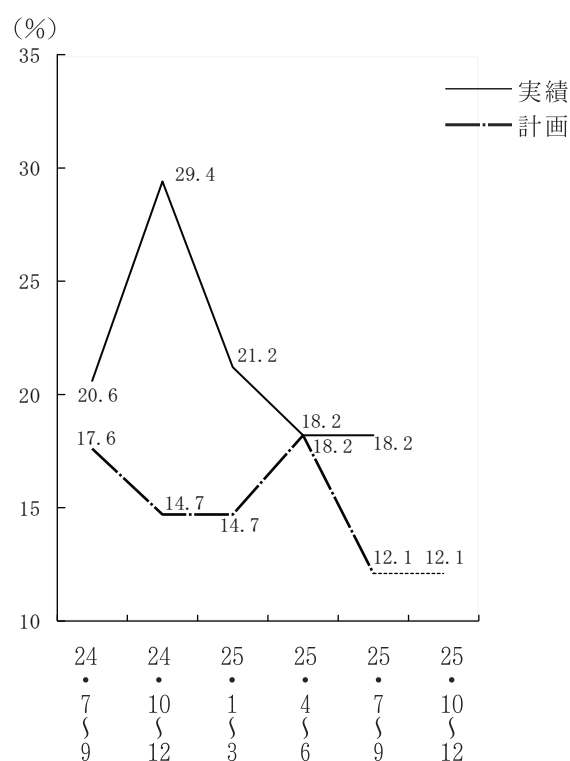
### (c) 設備投資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の18.2%(前期 18.2%)で前期同様であった。

その設備内容は土地、生産設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の12.1%で、その設備内容は生産設備、工場建物、付帯施設、OA機器となっている。

図1-4 設備投資の状況

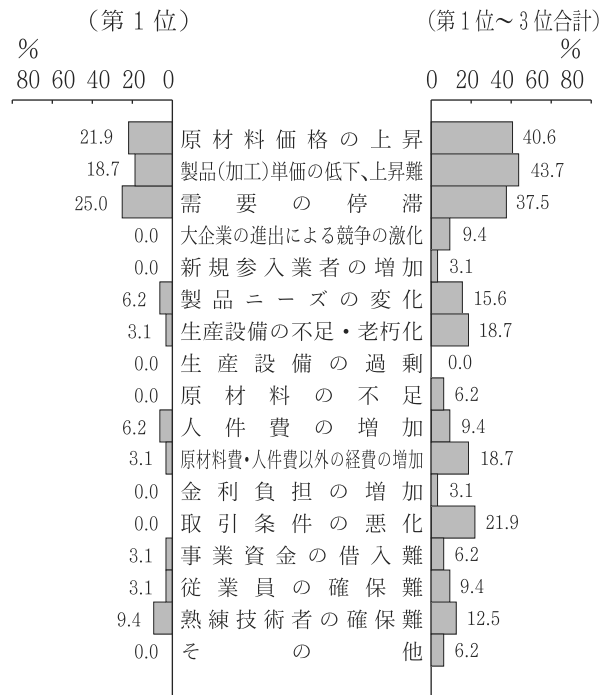


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は、「需要の停滞」(25.0%)、次いで「原材料価格の上昇」(21.9%)、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(18.7%)となっている。

重要度第1位から第3位合計では、「製品(加工)単価の低下、上昇難」(43.7%(複数回答以下同じ))、「原材料価格の上昇」(40.6%)、「需要の停滞」(37.5%)、次いで「取引条件の悪化」(21.9%)で続いた。

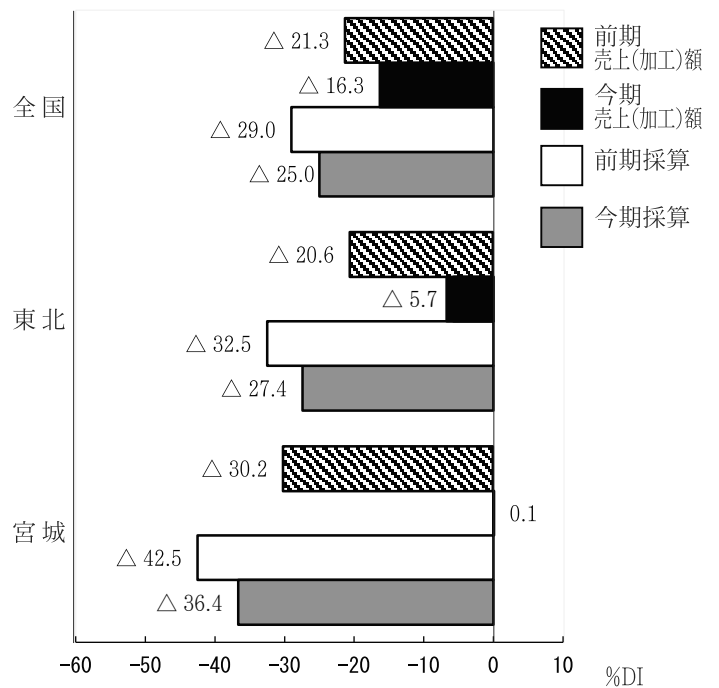
図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

売上(加工)額DI及び採算については、全国・東北の改善に比較し宮城の回復力はそれを大幅に上回った。本県回答事業者からは「過去の枠にこだわらず、取引先を選び変えたことが好転要因となっている」(縫製業)との意見が寄せられた。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較





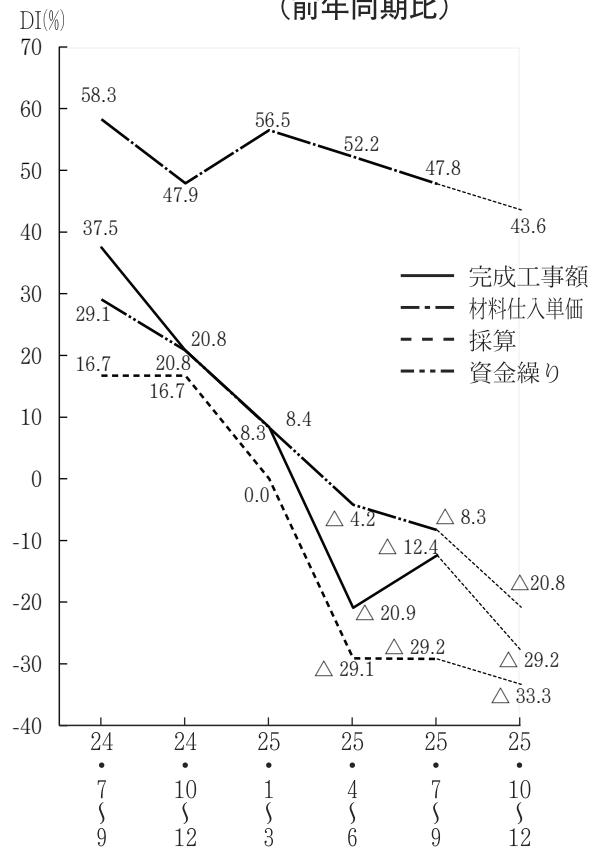
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは△12.4（前期△20.9）と8.5ポイント改善したものの、採算D Iは△29.2（前期△29.1）でほぼ前回調査同様となっている。資金繰りD Iも△8.3（前期△4.2）と4.1ポイント悪化した。

懸念されている材料仕入単価D Iは47.8（前期52.2）で4.4ポイント改善した。

図2-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



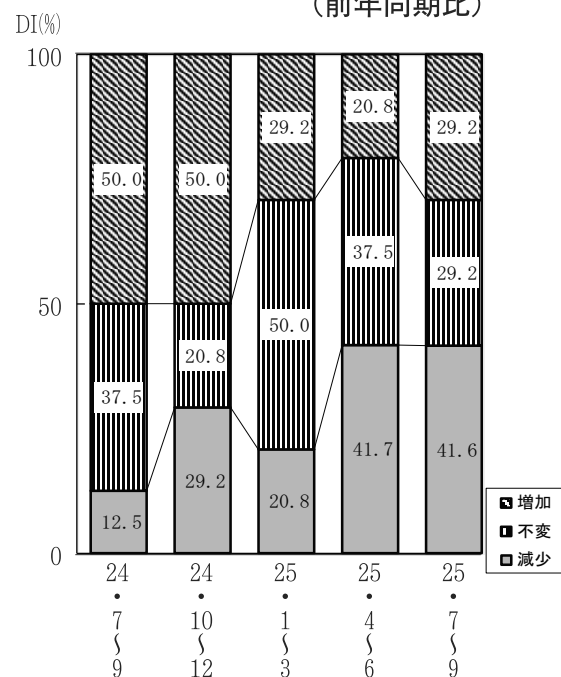
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の29.2%（前期20.8%）で8.4ポイント改善し、「減少・悪化」と回答した企業は41.6%（前期41.7%）とほぼ前回調査同様となった。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△12.4（前期△20.9）と8.5ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

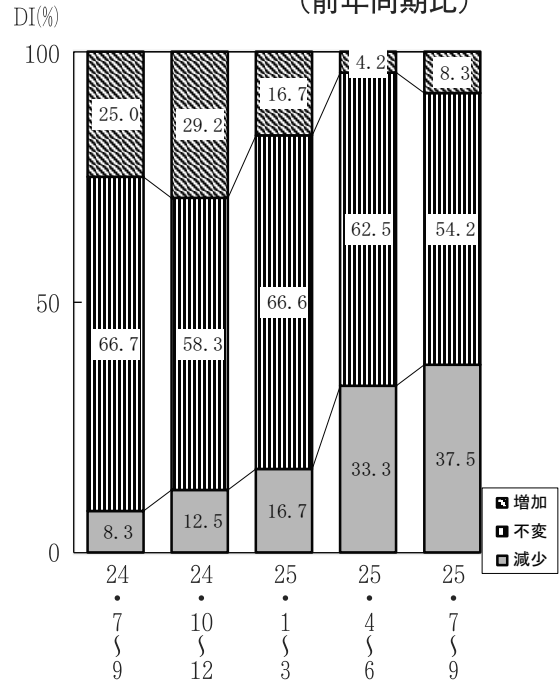


(b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の8.3%（前期4.2%）であり4.1ポイント増加したものの、「減少・悪化」と回答した企業も全体の37.5%（前期33.3%）で4.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは△29.2（前期△29.1）となり、横ばいとなった。

図 2 - 3 採算の状況  
(前年同期比)



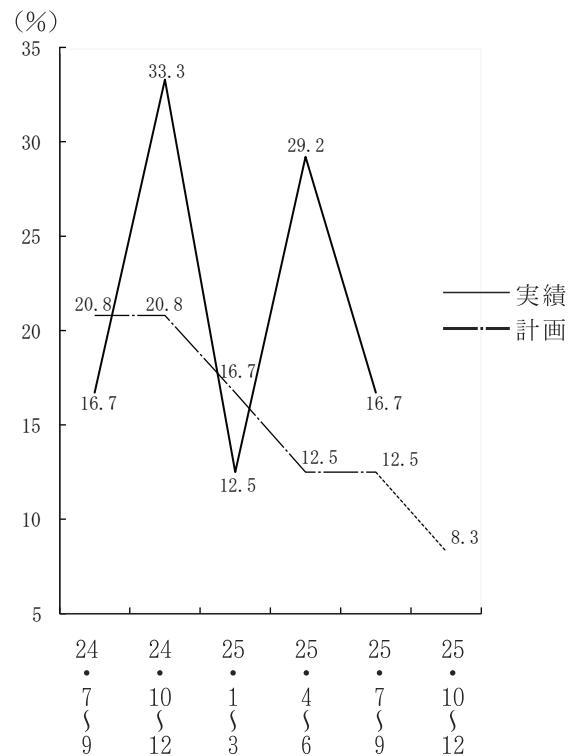
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.7%（前期29.2%）で12.5ポイント悪化した。

その設備内容はOA機器、車両・運搬具、建物であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の8.3%で、その設備内容は建設機械をはじめ、土地、建物、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設となっている。

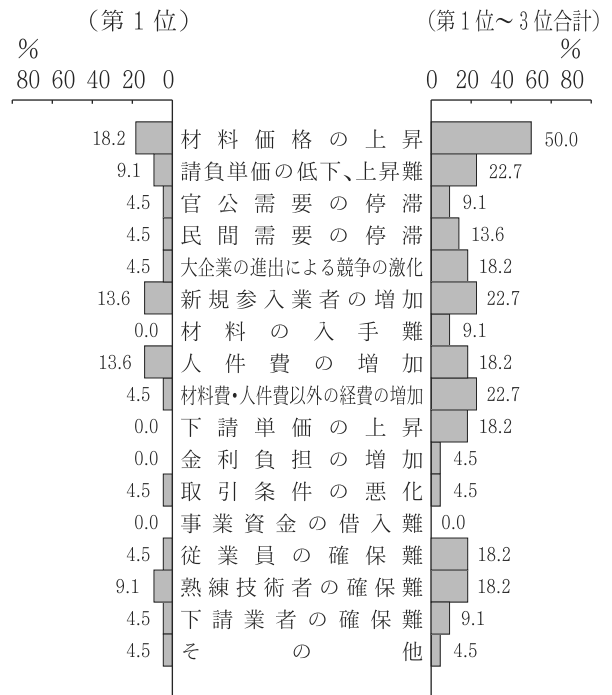
図 2 - 4 設備投資の状況



(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」(18.2%)、次いで「新規参入業者の増加」と「人件費の増加」が同率の13.6%と続いた。重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」(50.0%)、「新規参入業者の増加」「材料費・人件費以外の経費の増加」「請負単価の低下、上昇難」が22.7%と同率で続いた。

図2-5 経営上の問題点

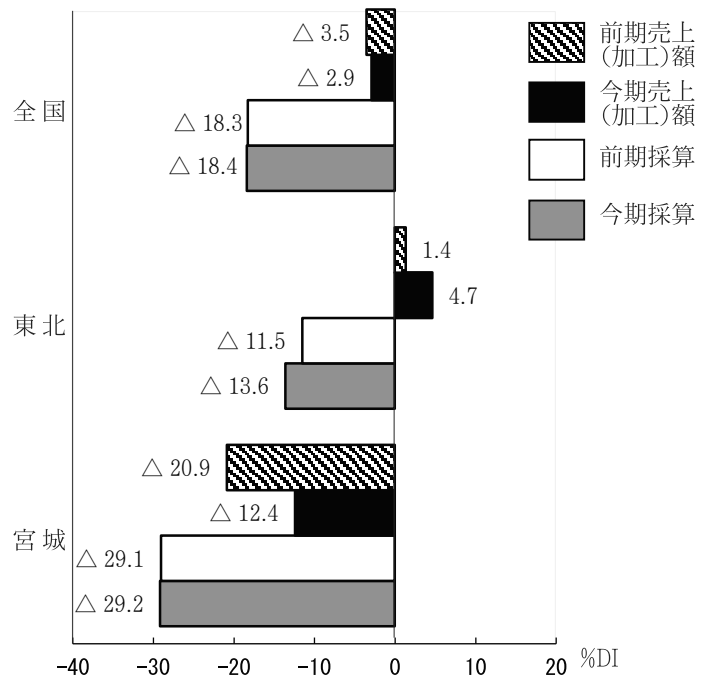


③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

宮城は震災後の需要ピーク時との前年対比となるため、震災特需の反動減の要素も考慮しなければならないが、今回調査においても全国、東北ブロックよりも劣位におかれた。

本県回答事業所からは「異業種からの新規参入により、価格競争の激化で利益率が低下している」「前年と比較して材料費の上昇が顕著である」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較



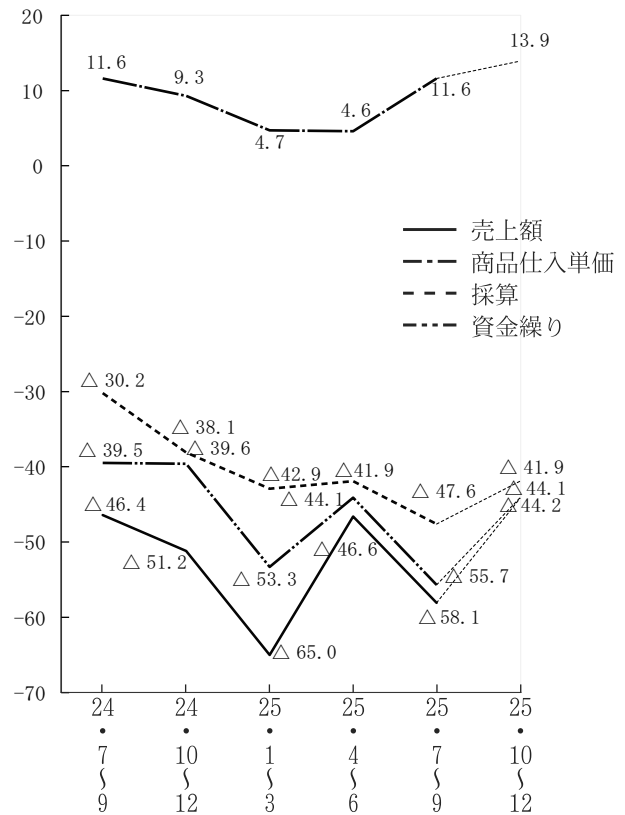
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは△58.1（前期△46.6）と11.5ポイント悪化し、採算D Iも△55.7（前期△44.1）で11.6ポイント、資金繰りD Iも△47.6（前期△41.9）で5.7ポイント悪化した。

一方、商品仕入単価D Iは11.6（前期4.6）となり7.0ポイント好転した。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



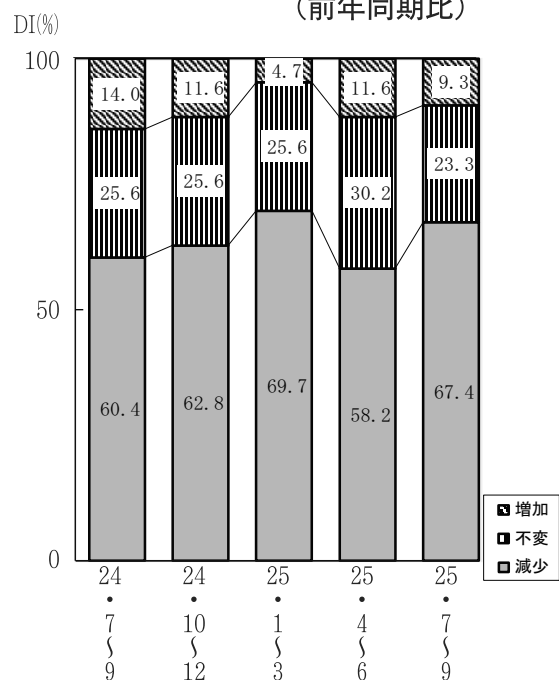
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の9.3%（前期11.6%）と2.3ポイント減少し、「減少・悪化」の回答は全体の67.4%（前期58.2%）と9.2ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは△58.1（前期△46.6）と前期比11.5ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

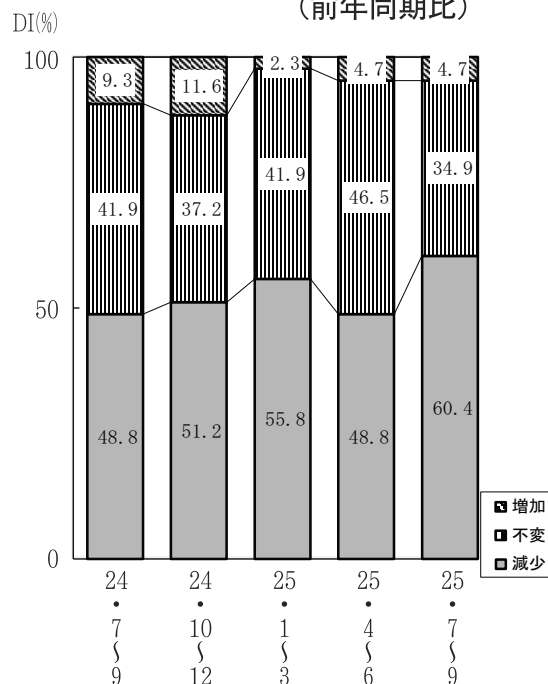


### (b) 採 算

「上昇・好転」と回答した企業は全体の4.7%（前期4.7%）で前回調査と変わらず、「悪化・低下」の回答は全体の60.4%（前期48.8%）で11.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは、△55.7（前期△44.1）となり、前期比11.6ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)

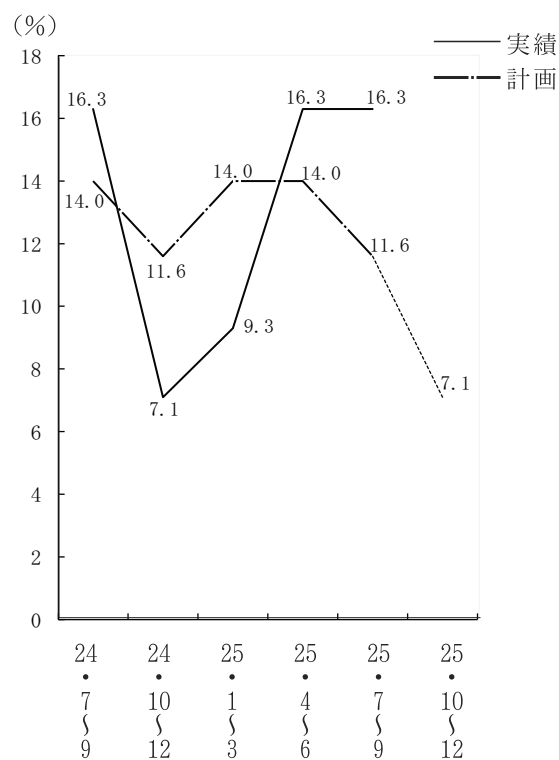


### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施企業割合は、全体の16.3%（前期16.3%）と前回調査と変わらず、その設備内容は販売設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備計画している企業は7.1%で、その内容は販売設備、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

図3-4 設備投資の状況

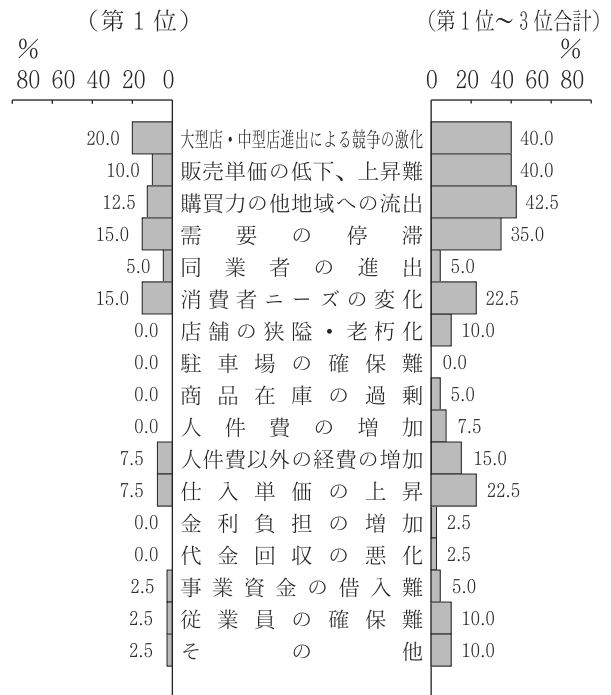


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「大型店・中型店の進出による競争の激化」で20.0%、次いで「消費者ニーズの変化」と「需要の停滞」が15.0%と同率となり、「購買力の他地域への流出」が12.5%と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「購買力の他地域への流出」が42.5%、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」と「販売単価の低下、上昇難」が40.0%と同率となり、「需要の停滞」が35.0%と続いた。

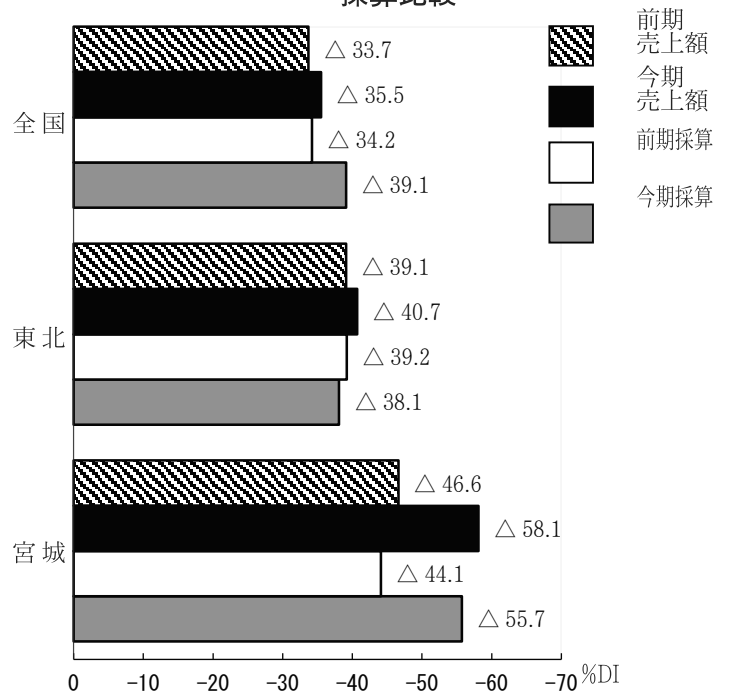
図3-5 経営上の問題点



### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

小売業は消費マインド改善の兆しはあるものの小売店の経営環境は依然として厳しく、他の産業より厳しい数値となっている。特に全国、東北と比較し宮城は一段と厳しい結果となった。本県回答事業所から「大型店、中型店等の進出により、かなり売上が減少傾向にある」「震災需要による資材関連の売上が落ち着き、通年ベースに戻った」などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較

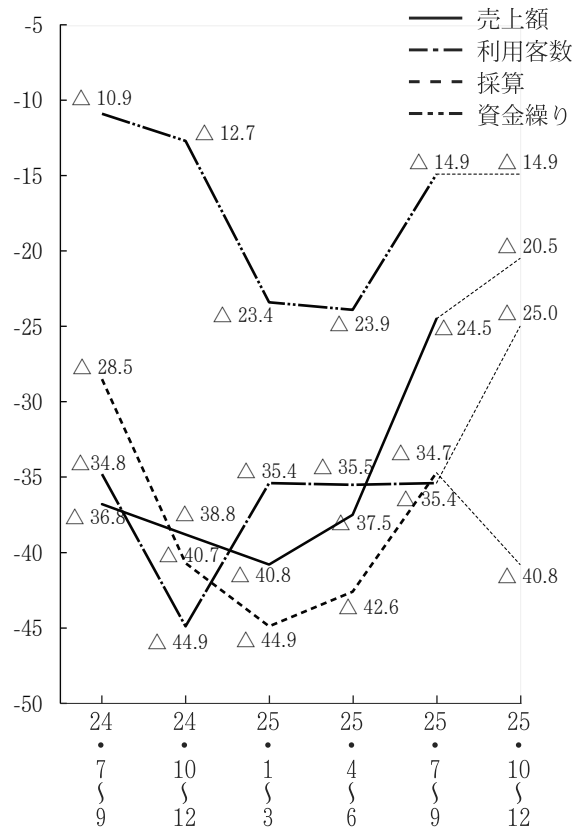


## (4) サービス業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらし

売上（収入）額D Iが $\Delta 24.5$ （前期 $\Delta 37.5$ ）で13.0ポイント改善し、採算D Iも $\Delta 34.7$ （前期 $\Delta 42.6$ ）と7.9ポイント改善した。利用客数D Iは $\Delta 35.4$ （前期 $\Delta 35.5$ ）でほぼ横ばいとなり、資金繰りD Iは $\Delta 14.9$ （前期 $\Delta 23.9$ ）と9.0ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



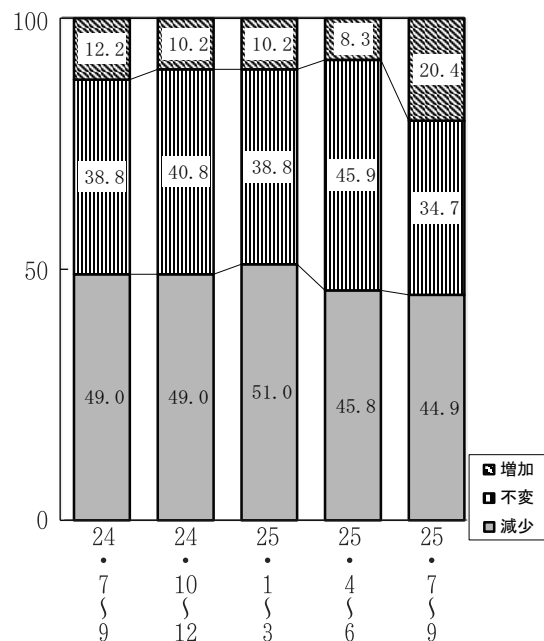
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 売上（収入）額

「上昇・好転」と回答した企業は全体の20.4%（前期8.3%）で、12.1ポイント増加した。「減少・悪化」の回答は44.9%（前期45.8%）で0.9ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは $\Delta 24.5$ （前期 $\Delta 37.5$ ）で前期比13.0ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況  
(前年同期比)

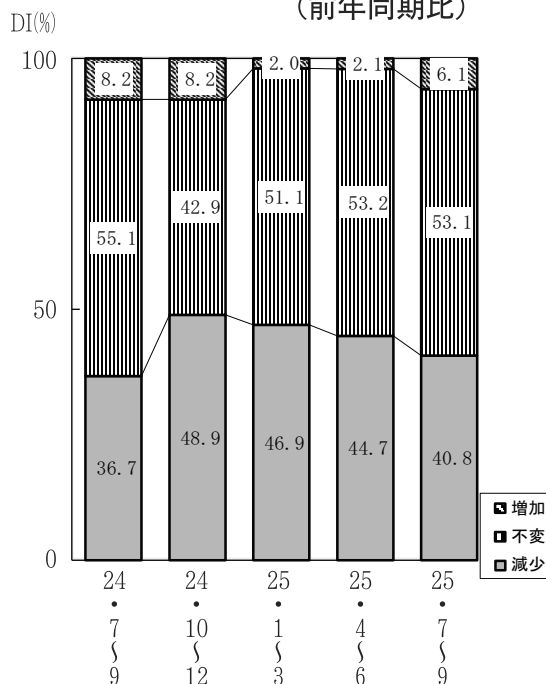


### (b) 採算

「好転・上昇」と回答した企業は全体の6.1%（前期2.1%）で前期比4.0ポイント増加した。「低下・悪化」と回答した企業は40.8%（前期44.7%）と3.9ポイント減少した。

その結果、採算DIは△34.7（前期△42.6）となり、前期比7.9ポイント改善した。

図4-3 採算の状況  
(前年同期比)



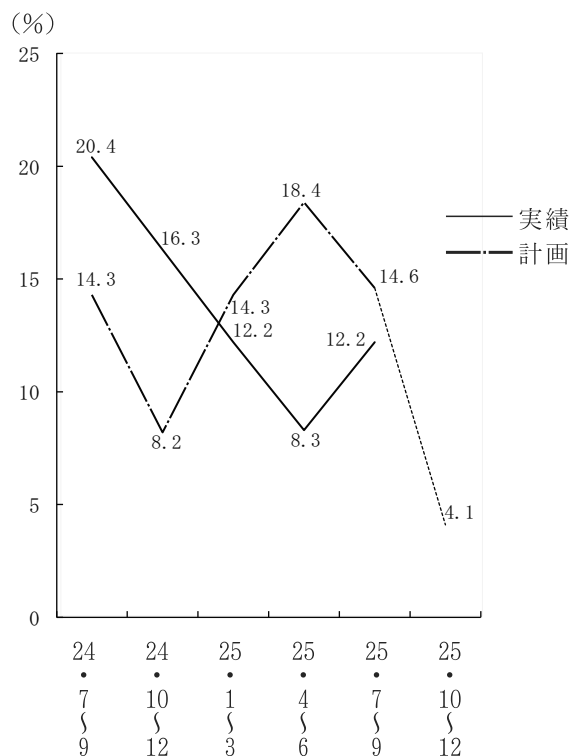
### (c) 設備投資

今期、新規投資を実施した企業は、全体の12.2%（前期8.3%）で3.9ポイント増加した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、土地、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、4.1%であり、その内容は、サービス、付帯施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況



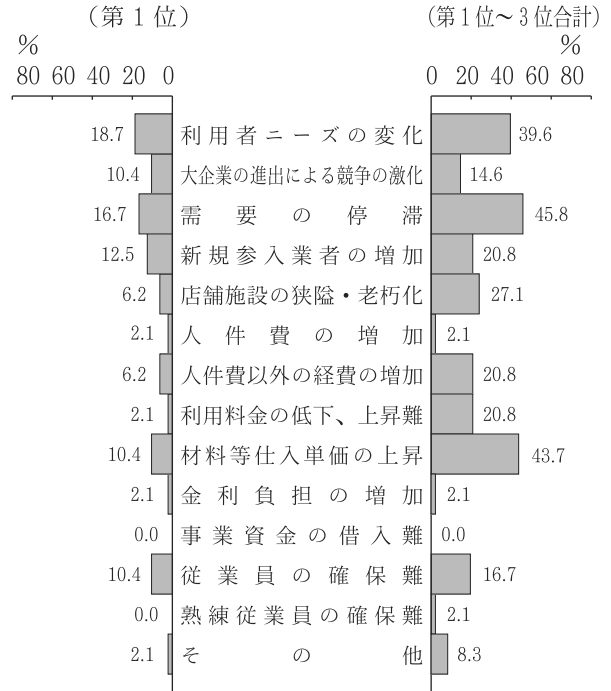


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「利用者ニーズの変化」で18.7%、次いで「需要の停滞」が16.7%、「新規参入業者の増加」が12.5%と続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が45.8%、次いで「材料等仕入単価の上昇」が43.7%、「利用者ニーズの変化」が39.6%、「新規参入業者の増加」「人件費以外の経費の増加」「利用料金の低下、上昇難」が同率20.8%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

サービス業の景況は、売上額や採算の面で改善が図られつつも、他の産業同様全国、東北と比較すると、宮城は劣位にある。本県回答事業所からは「確実に材料費は上がっている」、今後利益が減る不安がある、「人口流出に伴い、来店者が減少している」、「新規参入業者の増加、需要の停滞、設備の経年による修繕費の増加、仕入単価の上昇等により、今後の見通しは非常に厳しい」等のコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較

